

主要産地における令和4年産水稻の生育状況等について 第16報 (令和4年9月26日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年9月26日)

道府県	区分	生育状況等 (参考)		
		育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)	
北海道	(生育・作柄)	<p>【生育状況 (9月15日現在)】</p> <p>(全産) 生育は平年並に進んでいる。また、収穫作業は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政部 9月22日付)</p> <p>・作柄の良否 (8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「なつぽし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 3月16日) (出典資料は以下同じ)</p>
青森	(作柄)	<p>・9月20日現在の稲刈進捗は、県全体で3%となっており、平年より1ポイント下回った。(青森県 9月21日付)</p> <p>・作柄の良否 (8月15日現在) やや不良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	(作柄)	<p>・作柄の良否 (8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっており、県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐寒性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育・作柄)	<p>・9月20日現在、県内の水稻の刈取面積は4,579haであり、進捗率は7.6%となっている。県全体の刈取始期は9月18日で平年より1日早い。(宮城県 9月21日付)</p> <p>(栗原) 本年の栗原管内の出穂期は8月4日で、平年より3日遅くなった。8月7日に出穂期を迎えた北部平坦地帯における中生品種(「ひとめぼれ」等)の刈取始期は9月18日頃から9月25日頃となる見込み。(宮城県栗原農業改良普及センター 9月21日付)</p> <p>(大崎) 稈長・穂長は平年並～長めで、穂数・一穂粒数は平年を下回るため、㎡当たり粒数は少なめとなっている。(宮城県大崎農業改良普及センター 9月20日付)</p> <p>・作柄の良否 (8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育・作柄)	<p>(雄勝) 刈取の始期は、平年よりも4日早い9月19日だった。(秋田県 9月22日付)</p> <p>(由利) 成熟期の調査(平年値がある2品種・移植6か所平均)の結果、稈長は87.8cm(平年比107%)と平年より長く、穂長は19.0cm(平年比103%)と平年並み、穂数は466本/㎡(平年比98%)と平年並みとなっている。</p> <p>(秋田) 稲刈りが始まっている。また、成熟期の調査では、「あきたこまち」の稈長は86.5cm(平年比104%)、穂長は18.5cm(平年比103%)、穂数は384本/㎡、有効茎歩合は91.4%(平年+6.1%)となっている。(9月13日調査)</p> <p>(仙北) 管内の収穫作業は9月15日現在、約0.7%(150ha)程度の進捗。9月17日に始期を迎える見込み。(秋田県 9月16日付)</p> <p>・作柄の良否 (8月15日現在) やや不良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育・作柄)	<p>(酒田飽海) 9月の天候回復で、登熟歩合の進展に回復がみられ、坂野辺新田では平年並まで高まっている。漆曽根では、低いまま頭打ちとなっている。穂数の多い圃場や出穂の遅い圃場では、登熟歩合が平年並まで上がらないとみられる。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 9月22日付)</p> <p>・作柄の良否 (8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「はえぬぎ」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育・作柄)	<p>(農業総合センターの作柄解析試験)</p> <p>・出穂期が本郡(郡山市)で平年より2日から4日遅く、会津地域研究所(会津坂下町)で平年より3日遅く、浜地域研究所(相馬市)で平年より1日から2日遅くなっている。(福島県 9月9日付)</p> <p>・作柄の良否 (8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加していたが、飼料米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
茨城	(生育・作柄)	<p>【9月12日現在、水戸市】</p> <p>(5月2日移植)</p> <p>・成熟期は「あきたこまち」が8月21日で平年並、「ふくまるS」が8月25日で1日遅く、「コシヒカリ」が9月6日で3日遅かった。</p> <p>・「あきたこまち」は平年と比較して稈長は平年並、穂長はかなり長く、穂数は少なかった。倒伏程度は0.5でかなり小さかった。</p> <p>・「ふくまるS」は平年と比較して稈長、穂長は短く、穂数は少なかった。倒伏程度は1.0で小さかった。</p> <p>・「コシヒカリ」は平年と比較して稈長はやや長く、穂長は長く、穂数はかなり少なかった。倒伏程度は2.0でやや小さかった。</p> <p>(5月10日移植)「コシヒカリ」</p> <p>・成熟期は、9月12日で平年より4日遅かった。平年と比較した生育は、稈長はかなり長く、穂長は長く、穂数はかなり多かった。倒伏程度は3.0で大きかった。(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 9月22日付)</p> <p>・作柄の良否 (8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>

栃木	<p>・作柄の良否（8月15日現在） やや良。 （農林水産省 8月31日付）</p> <p>（作柄）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>向こう1か月、紋枯病の発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 9月7日付）</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
千葉	<p>・作柄の良否（8月15日現在） 平年並。 （農林水産省 8月31日付）</p> <p>（作柄）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 9月7日付）</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年産から新品种「粒すけ」の本格栽培が開始</p>
新潟	<p>【9月8日現在】</p> <p>「コシヒカリ」の収穫適期は、県平均で平年並の9月13日頃（出穂後の積算気温 1,000℃）の見込みだが、地域やほ場間で登熟の進みに差が生じている状況。「コシヒカリ」の生育調査ほにおける収穫前品質調査（出穂後の積算気温800℃）では、一部地域の調査ほ場において、乳白粒や基部未熟粒の発生が多くなっており、登熟初期の高温の影響が認められる。</p> <p>（生育・作柄）</p> <p>「新之助」の収穫適期は、県平均で平年より1日遅い9月24日頃（出穂後の積算気温 1,050℃）の見込みだが、積算気温に対する籾の黄化速度はやや遅めで、登熟が緩慢な状況。 （新潟県 9月8日付）</p> <p>・作柄の良否（8月15日現在） 平年並。 （農林水産省 8月31日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 9月7日付）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「こしいふき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品种「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。</p>
富山	<p>・作柄の良否（8月15日現在） 平年並。 （農林水産省 8月31日付）</p> <p>（作柄）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 9月7日付）</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんこもり」及び「てんたくく」の県のトップブランドに位置づけている「富山高」が増加傾向にある。</p>
石川	<p>・晩生は収穫期となっている。（9月22日現在）（石川県農林総合研究センター 9月22日付）</p> <p>（生育・作柄）</p> <p>・作柄の良否（8月15日現在） やや良。 （農林水産省 8月31日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 9月7日付）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル新品種の「ひやくまん粒」が増加傾向にある。</p>
福井	<p>・適期移植コシヒカリは、収穫適期になっている。（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 9月7日付）</p> <p>（生育・作柄）</p> <p>・作柄の良否（8月15日現在） やや良。 （農林水産省 8月31日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 9月7日付）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</p>
長野	<p>【9月12日現在、現地（平地地）の生育状況】</p> <p>「早生品種（あきたこまち、美山錦等）」・5月前半種：収穫終了・5月後半種：収穫中</p> <p>「コシヒカリ」・4月末～5月初旬種：成熟期 収穫中・5月上旬種：登熟後期～成熟期 収穫中・5月中旬種：登熟後期・5月下旬種：登熟中期～後期</p> <p>（生育・作柄）</p> <p>・5月前半に田植された圃場で生育の進みが早く、5月後半に田植された圃場では進みがやや遅い模様。 ・お盆明け以降の低温、降雨、日照不足の影響を受けて、生育は予想より遅れている。また降雨により倒伏圃場が増えてきている。 ・コシヒカリの収穫は9月10日頃より本格化した。降雨の影響で収穫が遅れている。（松本農業農村支援センター 9月12日付）</p> <p>・作柄の良否（8月15日現在） 平年並。 （農林水産省 8月31日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。</p>
滋賀	<p>・作柄の良否（8月15日現在） 平年並。 （農林水産省 8月31日付）</p> <p>（作柄）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温登熟性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>

兵 庫	<p>【9月2日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北部の極早生品種「コシヒカリ」の出穂期は平年(7月29日)より2日早く、草丈は平年並、莖数はやや多い。成熟期は平年よりやや早いと考えられる。 ・東南部の出穂期は、極早生品種の「キヌヒカリ」「どんとこい」は平年より1日早く、中生品種の「ヒノヒカリ」、晩生品種の「山田錦」も平年よりやや早くなる見込み。草丈は平年に比べ、「キヌヒカリ」「どんとこい」でやや低く、「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」でやや長く、「山田錦」でやや長い。莖数は「キヌヒカリ」「どんとこい」で平年並～やや少なくなった。「山田錦」では平年よりも多く、「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」は平年よりやや少ない。成熟期はやや早まると考えられる。(兵庫県産 9月5日付) <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。(農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
岡 山	<p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。(農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かび、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アケボノ」、「アキヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広 島	<p>【各品種の生育経過】(9月14日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」 ・生育初期は、草丈は平年よりやや短く、葉齢はやや少なくなると推測していたが、平年並となった。莖数は平年より少なめに推移しており、平年の7割～8割程度であった。 ・「あきらまん」 ・生育初期は、草丈は平年よりやや短く、葉齢はやや少なくなると推測していたが、平年との差は小さくなった。莖数は、平年より少なめに推移しており、平年の6割～7割程度である。 ・「ヒノヒカリ」 ・草丈は短めに推移していたが、移植後32日頃以降は平年並となっている。葉齢は平年よりやや遅く推移していたが平年並となっている。莖数は平年より少なめに推移しており、平年の6割～8割程度である。 <p>(広島県立総合技術研究所農業技術センター 9月14日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。(農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月23日～10月24日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かび、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
愛 媛	<p>(早期)(9月12日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あきたこまち」「コシヒカリ」とともに稈長は平年より長く、穂長は平年並であった。 ・穂数は「あきたこまち」「コシヒカリ」とともに平年よりかなり多かった。 <p>(普通期)(9月12日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稈長は「にこまる」で平年より長く、「ヒノヒカリ」でやや長かった。「あきたこまち」「ひめの涙」では平年並であった。 ・穂数についても「にこまる」で平年より多く、「ヒノヒカリ」でやや多く、「あきたこまち」「ひめの涙」で平年並であった。 <p>(愛媛県農林水産研究所 9月21日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。(農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、トイロウカ、斑点米かびの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。
高 知	<p>(普通期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培初期の水不足や低温の影響による生育遅延は、最近の高温の影響により回復傾向である。まとまった雨が少なく、水不足による雑草の発生が多い状態は解消されていないが、順調にいくれば平年並の生育となりそうである(8月月報)(高知県病害虫防除所 9月2日付) <p>(生育・作柄)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作柄の良否(普通栽培) 平年並。(農林水産省 8月31日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、トイロウカ、斑点米かびの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
福 岡	<p>【普通期水稲】(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)(9月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢つくし」の収穫は9月初め頃から開始している。収穫最盛期は平年並の9月10～18日頃の見込み。穂数は平年より多いが、出穂後の降雨による穂枯れ症が多く、収量は平年並みの見込み。 ・「元気つくし」の収穫は9月22～30日頃、「ヒノヒカリ」の収穫は10月5～10日頃の見込み。穂数は平年並だが、台風11号により倒伏が一部で見られ、登熟歩合の低下が懸念される。(福岡県農林業総合試験場 9月21日付) <p>【農林業総合試験場における生育概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期は平年より1～3日早かった。全穂数は「夢つくし」で平年より14%多く、「元気つくし」「ヒノヒカリ」で平年並、「実りつくし」で平年より10%少なかった。今後の気温が平年並で経過した場合、成熟期は平年より2～6日早いと予想される。(福岡県・福岡県米麦品質改善協会 9月7日付) <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや不良。(農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かび、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。
熊 本	<p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。(農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かびの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。
宮 崎	<p>・作柄の良否(普通栽培)(8月15日現在) やや不良。(農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かびの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系358」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島	<p>・作柄の良否(普通栽培)(8月15日現在) 平年並。(農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月24日～10月23日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米かびの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつぼか」への移行が急速に進んでいる。

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和4年9月26日14時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 9月15日現在(北海道農政部 9月22日)、
9月20日現在稲刈進捗状況(青森県「攻めの農林水産業」推進本部 9月21日)、
令和4年産水稲の刈取状況について(9月20日現在)(宮城県 9月21日)
大崎稲作情報第9号(大崎農業改良普及センター 9月20日)、
栗原の稲作通信令和4年第7号追補号(宮城県栗原農業改良普及センター 9月21日)、
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(9月26日閲覧)、
酒田飽海のつや姫・雪若丸情報第8号(庄内総合支庁農業技術普及課 9月22日)、
主要な農作物の生育情報令和4年度第6号(福島県農林水産部 9月9日)、
農研連報(茨城県農業総合センター農業研究所 9月22日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第6号)(新潟県 9月8日)、
熱帯低気圧の接近に伴う被害防止について(石川県農林総合研究センター 9月22日付)、
稲作情報No.17(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 9月7日)、
令和4年作物技術普及情報第18号(松本農業農村支援センター 9月12日)、
令和4年度兵庫県農業気象技術情報第5号(9月情報)(兵庫県 9月5日)、
令和4年度の水稲の生育状況(9月14日時点)(広島県総合技術研究所農業技術センター 9月14日)、
2022年産水稲の生育状況(愛媛県農林水産研究所 9月21日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 9月2日)、
福岡県の主な農産物の生産状況令和4年9月15日現在(専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 9月21日)、
福岡県米麦生産改善情報第4号(福岡県、福岡県米麦品質改善協会 9月7日付)

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁広島地方気象台)、四国地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁鹿児島地方気象台)、

令和4年産水稲の8月15日現在における作柄概況(農林水産省 8月31日)、
令和4年度 病害虫発生予報第7号(農林水産省 9月7日)、
令和4年産水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)

(参考)

気象概況

北日本太平洋側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温 平年差(°C)	降水量 平年比(%)	日照時間 平年比(%)
9/1~9/7	1.0	42	85
9/2~9/8	0.9	34	100
9/3~9/9	1.0	31	110
9/4~9/10	1.1	26	135
9/5~9/11	1.2	17	147
9/6~9/12	1.4	16	163
9/7~9/13	1.4	14	166
9/8~9/14	0.9	9	173
9/9~9/15	0.8	3	178
9/10~9/16	0.7	3	160
9/11~9/17	1.1	7	139
9/12~9/18	1.8	20	116
9/13~9/19	2.2	50	99
9/14~9/20	1.7	119	90
9/15~9/21	1.2	117	75
9/16~9/22	1.0	120	67
9/17~9/23	1.1	188	58
9/18~9/24	1.1	235	48
9/19~9/25	0.7	225	70

北日本日本海側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温 平年差(°C)	降水量 平年比(%)	日照時間 平年比(%)
9/1~9/7	0.8	48	112
9/2~9/8	0.9	35	130
9/3~9/9	1.1	34	141
9/4~9/10	1.4	29	159
9/5~9/11	1.5	17	164
9/6~9/12	1.7	14	176
9/7~9/13	1.5	14	173
9/8~9/14	1.0	11	177
9/9~9/15	1.0	2	182
9/10~9/16	1.1	2	165
9/11~9/17	1.5	13	149
9/12~9/18	2.1	30	123
9/13~9/19	2.4	118	106
9/14~9/20	1.7	173	99
9/15~9/21	1.3	173	91
9/16~9/22	1	175	87
9/17~9/23	1.1	210	78
9/18~9/24	0.9	249	68
9/19~9/25	0.6	233	87

東日本日本海側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温 平年差(°C)	降水量 平年比(%)	日照時間 平年比(%)
9/1~9/7	0.9	97	99
9/2~9/8	0.8	77	109
9/3~9/9	1.0	77	125
9/4~9/10	1.4	64	154
9/5~9/11	1.4	33	165
9/6~9/12	1.4	33	172
9/7~9/13	1.2	32	161
9/8~9/14	1.3	23	178
9/9~9/15	1.5	1	194
9/10~9/16	1.8	0	194
9/11~9/17	2.2	0	194
9/12~9/18	2.8	2	177
9/13~9/19	3.5	3	155
9/14~9/20	3.0	72	139
9/15~9/21	2.2	73	120
9/16~9/22	1.7	78	108
9/17~9/23	1.7	113	89
9/18~9/24	1.4	180	64
9/19~9/25	0.7	182	73

注) 気象情報などに用いる地域名(台風情報は除く)

- ・北日本太平洋側： 北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側。
- ・北日本日本海側： 北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側。
- ・東日本日本海側： 北陸地方。

資料: 気象庁「過去の地域平均気象データ」